

(4) 様式 4_助成事業実施報告書

2019 年 4 月 4 日

助成事業実施報告書

団体名 氷川台自治会
代表者・役職名 氏名 会長 殿田 俊三

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

～ラジオで街をもっと元気に ハッピーに～

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

1956年に開発分譲した戸建て住宅地で、入居者が中心になり1957年に設立された自治会。地域コミュニティ衰退に危機感を持った自治会は、2011年に活動方針を掲げて地域の課題解決に着手しました。様々な活動は地域づくりの先進事例と評価され「平成28年度ふるさとづくり大賞」団体賞(総務大臣賞)、「平成30年度あしたのまち・くらしづくり活動賞」内閣総理大臣賞を受賞しました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

少子高齢化は地域コミュニティを衰退させ高齢者の孤立を招き、高齢者が安心・安全に暮らせる地域社会の構築が急務です。危機感を覚えた団塊世代の会員が中心となり、自治会の現状認識に基づく課題を抽出して平成23年から改革に着手しました。様々な活動の効果は顕著に現れ高齢化率は38%弱から33%へ低下し元気な地域になりました。今後の課題は、増え続ける高齢者対策です。現在、見守り活動、災害時要援護者対策等の先進的活動を展開していますが、さらなる高齢者支援対策はタイムリーな情報提供による孤立の防止です。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

高齢者は住み慣れた地域で楽しく暮らし続けるために様々な地域活動に参加して健康維持に務めています。しかし、歳を重ねるごとに情報が入り難くなり家に閉じこもりがちになってきます。これらの課題解決の方策として、6月に開局した「FMひがしくるめ」と連携して自治会のイベント情報を提示に声で発信してお知らせします。情報発信はイベント情報にとどまらず、災害情報・防犯機能・緊急情報(徘徊情報など)をリアルタイムに流すことで会員が情報を共有し連帯感を醸成します。初年度、75歳以上一人暮らしや夫婦のみ世帯、日中75歳以上一人在家世帯など80世帯に緊急告知ラジオ(緊急電波自動受信装置付き)を配布して情報漏洩による孤立防止に努めました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

結果：FM放送で毎週木曜日11時～11時15分「氷川台自治会ラジオ回覧板」を放送。一週間のイベントやお知らせ情報を会員が持ち回りでシオリに出向きタイムリーに発信しています。会員は緊急ラジオやスマホで聴取し情報の共有が出来るようになりました。
成果：緊急告知ラジオを貸与された80世帯(75歳以上)の高齢会員は、定時に自動的に電源が入り流れてくる放送を聴き、ふれあいサロンやオレンジカフェ等に参加するようになりました。
社会的な変化：「自治会ラジオ回覧板」をFM放送電波で発信し、緊急告知ラジオで受信する自治会モデルは放送受信リスナーに大きな反響を呼んでいます。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

実施にあたっての課題：毎週木曜日「自治会ラジオ回覧板」の放送は、自治会会員は勿論、東久留米市内全域のリスナーが聴いているため、自治会イベント案内だけでなく他の地域の皆さんも地域活性化の起爆剤になるような放送内容にも心掛ける必要があります。
今後の展望：FM電波を使ったタイムリーな情報が350世帯全会員に届くように「緊急告知ラジオ」導入を順次進めます(2019年度100台予定)。また、「ラジオ回覧板」放送は、東久留米市内だけでなく隣接する清瀬市にも電波が届いているため、FM電波を通して氷川台自治会の先進事例を伝え、自治会・町内会の地域コミュニティ醸成の一翼を担います。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

北多摩経済新聞で 氷川台自治会の取り組みが紹介される！

7月3日付け、北多摩経済新聞でFMひがしくるめ開局(6月30日)の紹介記事の中で、氷川台自治会の新たな取り組みが紹介されました。高齢者など情報が届きにくい会員を対象に「FMひがしくるめ専用緊急告知ラジオ」を配布して、コミュニティラジオ局電波を使った「ラジオ回覧版」を開始するものです。

【北多摩経済新聞記事】7月3日付け

FMひがしくるめ開局 情報で「街を元気に」、災害時の取り組みも



」放送スタート。スタッフはそろいのTシャツで

「街を元気に、ハッピーに！」を掲げて、東久留米市内を主な聴取エリアとするコミュニティーラジオ局「FMひがしくるめ」が6月30日、開局した。スタジオは成美教育文化会館1階（東久留米市東本町8）。

21日に総務省から予備免許を受け、85.4メガヘルツで試験電波を発射しており、30日正午に本放送を開始した。当初の2日間は、開局特別番組「くるめライジング」を放送。並木克巳東久留米市長をはじめ、地元の飲食店や商店主などをゲストに迎え、約40組が出演した。見学や関係者など多くの人も訪れ、スタジオは開局を祝う人たちでにぎわった。

スタジオ前には、公式キャラクターの「くるめラちゃん」も登場。市内を流れる落合川に生息する「ほとけどじょう」をモチーフとした姿をプリントしたクッキーを、「クラブくるめラ」に入会した先着100人に配布した。

同局は地元密着を強く打ち出し、地元情報をいち早く、詳しくリスナーに届けることをモットーとする。8時から22時まで全て生放送で、「安心して聴き続けられる放送」を目指す。交通情報、迷子のペット情報や、お店の情報など、街の伝言板として利用してほしいと同局担当者。市と災害協定を結び、地震や洪水などの発生時には、東久留米市役所と連携して早く正確な情報を発信する。

近隣の氷川台自治会では補助金などを活用して「FMひがしくるめ専用防災ラジオ」を3年計画で全戸に配布する。同局では今後時間を決めて「ラジオ回覧板」といった番組を流し、高齢などの理由により回覧板が届きにくい世帯にも対応する仕組みを作る。同自治会は7月8日に防災訓練を行い、その中で防災ラジオのデモンストレーションも行うという。

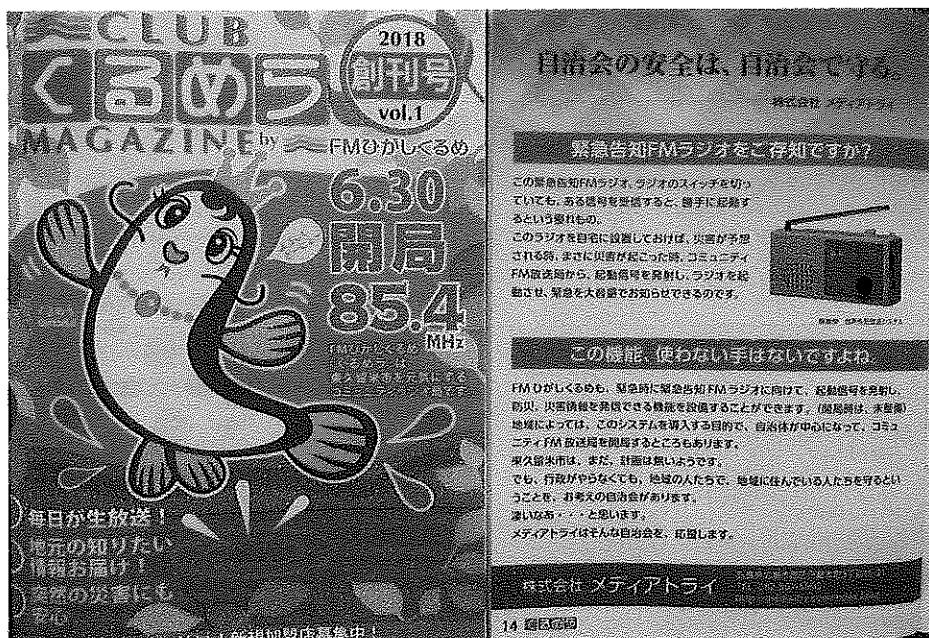
開局特番にゲスト出演した真方自動車（東久留米市下里）の鈴木博子さんは、パーソナリティ一の鈴木実穂さんと子どもをきっかけに交流する友人同士。動物保護や地域情報の活動に共感し「クラブくるめラ」に加盟し、ゲスト出演のため来局した。ラジオ初出演となるこの日は7歳のめい、5歳のおいと3人でスタジオ入り。元気でかわいらしい子どもたちとの掛け合いで、和やかな放送となった。鈴木さんは、ペットの迷子や親族の徘徊（はいかい）など、「地元での情報共有があればもっと早く見つけられたのに」という思いをしたことがあるという。「防災や災害発生時の情報など、ローカルな放送だからこそ守れる命がある。だから応援したい」と期待を寄せる。

その後も、名物・チャーハンケーキを差し入れた「レバニラ定食 kei 楽（けいらく）」（清瀬市松山）、「ネット放送時代から応援してきた」というラーメン店「がんてつ」（東久留米市滝山）など、地元のお店や人が続々駆け付け、市民の期待に見守られた開局となった。

氷川台自治会 殿田 俊三

「FMひがしくるめ」との協働、 安心・安全なまちづくりへ緊急告知ラジオ配布!

氷川台自治会の「安心・安全なまちづくり」へ向けた取り組みに拍車が掛かりました。今年早々から東久留米にコミュニティ放送局が開局するとの情報を得て、氷川台自治会が地域の重要課題と捉えて方策を模索していた「地域の安心・安全対策」、「高齢者対策」、「活性化対策に不可欠なタイムリーな情報発信」を可能に出来るのは、コミュニティ放送局との協働しか無いとの結論を出すに時間は要りませんでした。



東日本大震災以降、コミュニティ放送は、生活情報、行政情報、災害情報及び福祉医療情報等、地域に密着した情報を日常的に提供する FM 放送として地域住民に親しまれると共に、いったん災害が発生した場合には、被災者向けのきめ細やかな災害関連情報の伝達に大きな役割を果たすことが明確になっていました。氷川台自治会では、高齢者や災害弱者の安全性を高めるため「緊急告知ラジオ」導入を決定しました。





今回 80 台購入して、災害弱者世帯(75 歳以上一人暮らし世帯、75 歳以上夫婦のみ世帯、見守り支援希望届け会員世帯、災害時要援護者支援希望登録者世帯)に配布(貸与)しました。緊急告知ラジオは電源が OFF 状態でも「FMひがしくるめ」から氷川台自治会独自信号発信により電源 ON になり、緊急情報が伝わるシステムです。高齢者に伝わりにくい情報でも否応なく伝えられる効果があり、安心・安全な暮らしづくりに大きく寄与します。

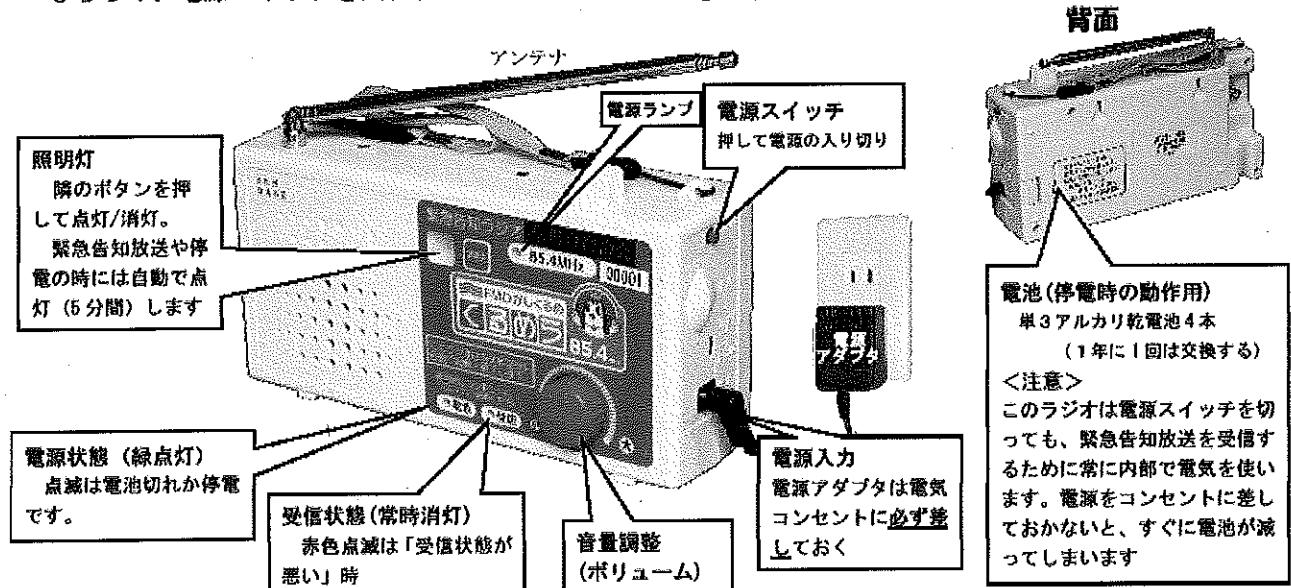
緊急告知ラジオ導入に当たっては、真如苑「Shinjo プロジェクト」多摩地城市民活動公募助成を受けて購入しました。

氷川台自治会
2018/09

<自治会貸与> 「緊急告知ラジオ」 説明書

「FMひがしくるめ」受信専用ラジオです。電源スイッチを切っていても「FMひがしくるめ」からの緊急告知放送(*1)で自動的に電源が入り、大きな音で放送が流れます。また、停電すると非常灯になります。

もちろん、電源スイッチを入れれば「FMひがしくるめ」を聞くことができます。



*1: 緊急告知放送: 市からの災害緊急警報、氷川台自治会からの重要連絡など

災害時においては、幅さうのない放送の特性を活かした迅速な災害情報の提供が可能な放送メディアは、情報提供手法として有効であることはこれまで指摘されてきています。震災に当たっては、放送インフラ自体も多大な影響を受けたが、そのような中でも、地元放送局等は地域住民が必要とする安否情報や生活関連情報の提供等、災害に係る正確かつきめ細かな情報を住民に迅速に提供し有効性が確認されています。

今年に入ても全国各地で震度5以上の地震が9か所で発生しています。9月6日の北海道胆振東部地震（震度7）の記憶は真新しい処です。6月26日、政府の地震調査会が、今後30年内に震度6以上の揺れに見舞われる確立を示した2018年版「全国地震動予測地図」を公表しました。東京中心部は48%、千葉85%、横浜82%、大阪56%、となっていますが、あくまで予測であって「大きな地震は必ず来る」ことを念頭に、万一の事態に備える心構えが、一人ひとりに必要です。

*防災・危機管理の基本原則

- ・災害はまだ先だと思っている間は、形式的防災対策しかできない
- ・悲観的に準備すれば 楽観的に生活できる

緊急告知ラジオ導入による「安心・安全対策」に興味をお持ちの方は「FMひがしくるめ」に相談して見て下さい。個人個人では難しいと思いますので、自治会・町内会の枠を超えた地域でまとまって導入を検討されると良いかと思います。

氷川台自治会 殿田 俊三

NHK 首都圏ネットワークで放映された 「氷川台自治会ラジオ回覧版」!!

10月4日(木)11時～11時15分、「氷川台自治会ラジオ回覧版」が FMひがしくるめとの協働によりスタートしました。「地域の安心・安全対策」、「高齢者対策」、「活性化対策」に不可欠なタイムリーな情報発信を可能にしました。



回覧版を回すのが難しい高齢者世帯が増えていることから、氷川台自治会では「FMひがしくるめ」との協働で、自治会員向けの情報を流す「ラジオ回覧版」を開始します。

氷川台自治会

「氷川台自治会ラジオ回覧版」は、毎週木曜日 11 時～11 時 15 分(15 分間)を定期番組として、矢沢雪絵さんを NAVI に自治会から会長が主に出演して情報を発信していきます。FM 局スタジオからパーソナリティーと自治会会員が、自治会のイベント情報やサークル開催案内、防災・防犯情報(振り込め詐欺)などをタイムリーにお知らせします。

先に緊急告知ラジオをお配りした会員さんは、緊急告知ラジオの電源が切ってあっても、FM ひがしくるめが発信する信号により自動的に電源が入り「ラジオ回覧版」が始まります。



緊急告知ラジオ

FM ラジオで FM85.4Mhz にチャンネルを合わせると聞けますし、東久留米市を離れて勤務されている方はパソコン、スマートホン、タブレットに「FMひがしくるめ 85.4 of using FM++(エフエムプラプラ)をダウンロード!

災害時においては、輻そうのない放送の特性を活かした迅速な災害情報の提供が可能な放送メディアは、情報提供手法として有効であることはこれまで指摘されてきています。震災に当たつては、放送インフラ自体も多大な影響を受けたが、そのような中でも、地元放送局等は地域住民が必要とする安否情報や生活関連情報の提供等、災害に係る正確かつ細かな情報を住民に迅速に提供し有効性が確認されています。

今回 80 台購入して、災害弱者世帯(75 歳以上一人暮らし世帯、75 歳以上夫婦のみ世帯、見守り支援希望届け会員世帯、災害時要援護者支援希望登録者世帯)に配布(貸与)しました。緊急告知ラジオは電源が OFF 状態でも「FM ひがしくるめ」から氷川台自治会独自信号発信により電源 ON になり、緊急情報が伝わるシステムです。高齢者に伝わりにくい情報でも否応なく伝えられる効果があり、安心・安全な暮らしづくりに大きく寄与します。



緊急告知ラジオ導入に当たっては、真如苑「Shinjo プロジェクト」多摩地城市民活動公募助成を受けて購入しました。

氷川台自治会 殿田俊三

その日は、やがて、

七〇

その中に、
時代や離れ

暮らす高齢の親
を持つ子世代に
よつて安らぎ

た。そのなかに、ユニークなのが、地元の自治会と提携するという全国初の取り組み。この自治会は、「平成28年度ふるさとづくり大賞」で団体・総務大臣賞を受賞している活動的な自治会だ。この自治会とFMひがしくるめが連携し、地元の金戸5月に開局予定の「FMひがしくるめ」というコミュニティ放送局だ。画面写真。

筆者は先日、東京・多摩地域のコミュニケーション・ビジネスが集まるイベントに参加し、さまざまなコミュニケーション・ビービングнесスの起業家と情報交換し

開局に向けストックを大募集

2018年 開局へ! いよいよ

- | SUB MENU
- スケッチを表示する
- (1) クリエイティブ
- (2) FACEBOOK
- (3) フォト
- (4) リンク

- | 設定情報
- (1) 画質を変更する
- (2) デバイスを変更する
- (3) バッテリー残量
- (4) メモリ残量
- (5) バックアップ
- (6) データを削除する

- | Social Media
- (1) FACEBOOK
- (2) TWITTER
- (3) HUBBLE
- (4) UNIS

「専用ラジオを配布。朝夕、
「ラジオ回覧板」の放送で自
治会情報を流すとともに、午
前7時から午後10時の生放送
中には認知症の高齢者が行方
不明になったなどの緊急のお
知らせも含め、いつでも情報
を流せる仕組みを構築するの
だ」という。

高齢社会つなぐ自治会ラジオ

にてな／ 誰もか一地域か／
社会を変えよう」という意識
を待てば、「介護離職問題」

連携したいという。見守りの機能がないのは残念だが、高齢の親世代を守る地域インフラのひとつとして、このような試みには注目したい。

最近、「高齢化社会」という言葉を聞かない日はない。実際には高齢社会ではなく、

は年を取ることを頭では理解しているつもりでも、多くの人たちが自分事として捉えられないのが現実だ。

各地域のさまざまなコミュニティーアジテスが超高齢・人口減少問題に取り組もうとしていることはうれしいが、こうした意識の高い人たちだ

もっと深刻に超高齢・人口減少社会と捉えるべきだが、人

もさうに改善していくので
はないだろうか。

「親のこと」相談受け付けます

高齢の親が抱える問題は、また
べての子世代が直面する問題

トの相談員がアドバイスします。

で、悩みは人それぞれです。そこで夕刊フジは、当欄執筆者の大澤尚宏氏が代表を持つ「めぐらし」

相談料は税込み1万円。相談場所は原則として東京・大手町の華錦新聞社会議室。
希望の

「株式会社オヤノコトネット」と協力し、読者からの相談を毎月定期的に受け付ける。吉田の著

の面談室を開設する。この面談室は、日時に相談員との面談を設定します。相談申し込みは夕刊フジ

別に受け付けておらず、老人ホームの選び方、相続などの「親のこと」について、知識と経験豊富なオヤノコトネ

編集局オヤノト相談係
ル03-3597-10・8887-22メー
ル: oyano.koto@fujinews.com
折り返し係からの返信しづち。

・大澤尚宏（おおさわ・たかひろ）
オヤノコトネット（www.oyanokoto.net）代表取締役。1995年に日本初の本格的バリアフリー生活情報誌を創刊。2008年、「そろそろ親のこと」

(商標登録)をブランドにオヤノコトネットを創業し、「高齢期の親と家族」に関わるセミナー講師や企業のマーケティングアドバイザーとして活躍している。

あしたのまち活動賞



空き地を活用した農園で野菜を収穫する
る住民たち（昨年7月、自治会提供）

氷川台自治会 総理大臣賞

東久留米 空き地を農園 地域活性化

独自の発想で住み良い地域社会づくりに取り組む団体などを表彰する「あしたのまち・くらしづくり活動賞」（あしたの日本を創る

協会、読売新聞東京本社など主催）で、東久留米市の氷川台自治会が最高賞の内閣総理大臣賞に選ばれた。

空き地を農園として活用する活性化策などが評価された。表彰式は11月4日、北区で行われる。

氷川台自治会は、1956年に開発・分譲された戸建て住宅の住民らでつく

る。初期の頃に移り住んできた人らは80歳を超える。若い世代の多くは独立しており、地域では高齢化が進む。

危機感を持つた自治会は2011年、対策に乗じて注目したのが、増加が目立つ空き地や空き家。火災など災害時に被害が拡大したり、犯罪に悪用されたりする恐れがあるためだ。

自治会は空き地3か所を所有者から借り、農園として整備。農園や空き家で、

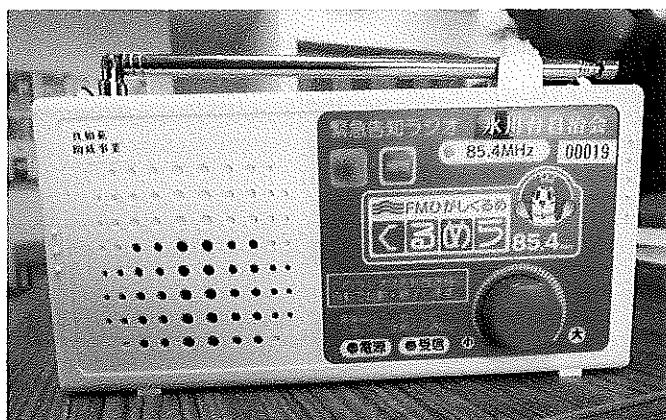
収穫した野菜の直売会などを開催した結果、地域住民の触れ合いの場となつた。田俊三さん（71）は受賞に喜び、「農園は昨年で終了したが、若い世代が自治会に加入するようになつた。自

治会メンバーの高齢化率は、取り組み当初の約38%から34%へと改善したという。

現在は氷川台会館を拠点に、若いママ同士が触れ合つたり、先輩ママから助言を受けたりできる「子育てサロン」を実施。認知症の予防法などを学べる「オレンジカフェ」も聞く。住民の足を確保するため、大型商業施設と地域を結ぶ「ミニティーバス」も運行する。

「住民がつながれば、地域が変わることを知つてもうしたら」。自治会長の殿の触れ合いの場となつた。田俊三さん（71）は受賞に喜び、「農園は昨年で終了したが、若い世代が自治会に加入するようになつた。自

【活動写真】



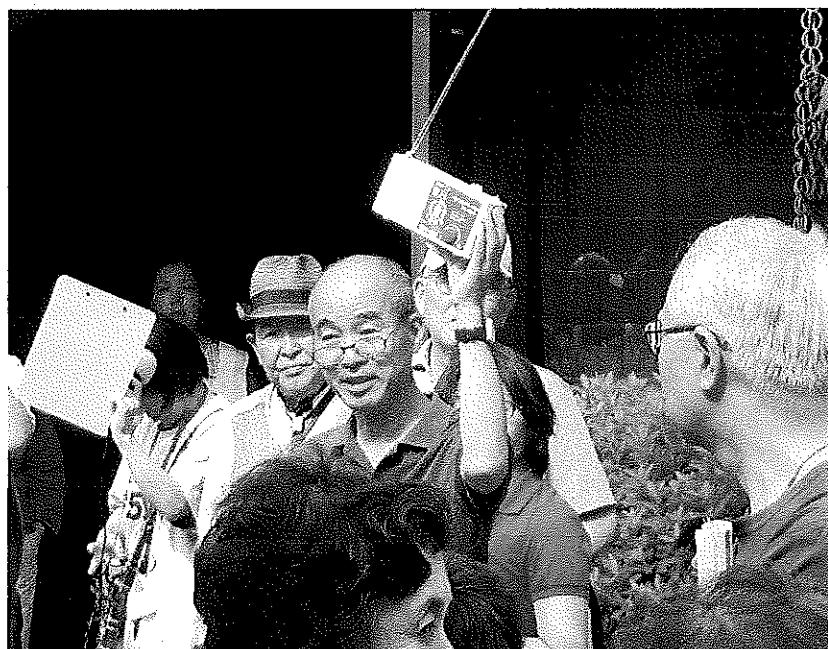
緊急告知ラジオ



真如苑助成事業表示



助成金で購入 25 台



2018.7.8 春の防災訓練
緊急告知ラジオのデモンストレー
ション